



平成 28 年 4 月 4 日  
ペプチドリーム株式会社  
<http://www.peptidream.com/>  
(証券コード：4587 東証第一部)

## ペプチドリーム株式会社と米国 BIND Therapeutics 社との 共同研究の進捗状況に関するお知らせ

ペプチドリーム株式会社と米国・BIND Therapeutics社（以下「BIND」といいます。）は、これまで当社独自の創薬開発プラットフォームシステム：PDPS（Peptide Discovery Platform System）を用いた共同研究を進めておりましたが、このたび、本共同研究について共同で公表できることになりましたので、お知らせいたします。

本共同研究では、BIND社独自のAccurin ナノ粒子（ACCURINS®）を選択的に標的細胞へ運ぶために必要な生物学的活性を有するリガンドとしての特殊環状ペプチドを当社がPDPSを用いて探索します。BIND社は複数の興味深い標的タンパク質を有しており、腫瘍細胞死の誘導及び腫瘍微小環境の調整に焦点を当てた革新的医薬品創製を行うことで患者さんに対する臨床効果の最大化を目的としております。

Accurin ナノ粒子（ACCURINS®）は、ポリマーナノ粒子であり、その中に多様な物理的及び化学的特性を有する薬剤を封印し、さらに当該薬剤の放出を制御することができます。また当社が提供するリガンドとしての特殊環状ペプチドは、生物学的応答を誘発し、標的となる細胞や臓器にナノ粒子（又は薬剤）を集積させるためのリガンドであり、Accurin ナノ粒子の表面を修飾することができます。BIND社は、リガンドとしての特殊環状ペプチドをAccurin ナノ粒子と組み合わせることで、抗腫瘍免疫応答を調節することを目的とした革新的医薬品の創製ができるものと考えております。

### 【ペプチドリーム株式会社 代表取締役社長 窪田 規一 のコメント】

「私どもは、BIND社のAccurin ナノ粒子の標的リガンドとして、当社の特殊環状ペプチドを利用する共同研究が行えることに大変興奮しております。BIND社はナノ粒子を用いた創薬の分野において世界的リーダーであり、この共同研究は大きな相乗効果を生み、画期的新薬創製へ繋がるものと確信しております。このたびの戦略的共同研究は、当社において以前から取り組んでいるペプチド-薬物複合体：PDC（Peptide Drug Conjugate）（※PDCについては、次ページの囲み枠をご覧ください。）の取り組みをさらに拡大するだけでなく、当社の特殊環状ペプチドが次世代の革新的医薬品創製の加速に寄与するものと考えております。」

## 【米国・BIND Therapeutics社 CSO Jonathan Yingling氏のコメント】

「このたびの共同研究は、BIND社が目標にしている革新的医薬品の創製には不可欠であり、腫瘍細胞死の誘導及び腫瘍微小環境の調整に焦点を当てた当社のAccurin ナノ粒子の開発に大きく寄与するものと考えています。ペプチドリーム独自の創薬開発プラットフォームシステム：PDPS (Peptide Discovery Platform System) により、BIND社において優先順位が高い標的リガンドとなるペプチドを見出し、Accurin ナノ粒子と組み合わせることでBIND社独自のACCURINS®の価値を最大化できます。このたびのペプチドリームとの戦略的提携はBIND社の革新的医薬品のポートフォリオ充実にとって極めて重要な一歩であると考えております。」

本日公表のBIND社との戦略的提携は、当社におけるペプチド-薬物複合体：PDC (Peptide Drug Conjugate) の取り組みの第二弾となります（第一弾は、先日発表したJCRファーマ社との戦略的提携：血液脳関門 (BBB) 通過を可能とするキャリアーとしての特殊環状ペプチドの取得です。）。当社は、ペプチド-薬物複合体：PDCの取り組み・価値の最大化を図るべく、今後も戦略的提携を模索していきます。

過去6年間に、当社は多くの世界的製薬企業（米AMGEN社、英AstraZeneca社、米Bristol-Myers-Squibb社、米Genentech社、英GlaxoSmithKline社、仏IPSEN社、米Lilly社、米Merck社、スイスNOVARTIS社、仏Sanofi社、旭化成ファーマ株式会社、杏林製薬株式会社、塩野義製薬株式会社、第一三共株式会社、田辺三菱製薬株式会社、帝人ファーマ株式会社）との間で創薬共同研究開発契約を結び、戦略的共同研究開発を行ってきました。さらに、米Bristol-Myers-Squibb社、スイスNOVARTIS社及び米Lilly社に対しては、当社独自の創薬開発プラットフォームシステム：PDPS の非独占的なライセンス許諾（技術ライセンス契約）を実施しております。

### ■ ペプチド-薬物複合体：PDC (Peptide Drug Conjugate) について

ペプチド-薬物複合体：PDC (Peptide Drug Conjugate) のアプローチの特長はペプチドそのものが“医薬品”となるのではなく、ほかの“医薬品”とペプチドとの複合体を形成し、その複合体である“医薬品”を特定の細胞又は組織へ「選択的に運搬する機能」（狙ったところに送り届ける機能）を付加できることにあります。これにより、従来の“医薬品”が有する毒性を低減させたり、薬物動態の問題を解決したりすることが可能になります。さらに複合体を形成できる“医薬品”の種類は、ほぼ無限大であり、天然物由来の毒素、低分子医薬品、薬物を封印したナノ粒子（このたびのBIND社のAccurin ナノ粒子に代表される物質）、放射性同位体元素を含む医薬品、核酸医薬品、抗体誘導型化合物及びその他の多様な化合物（すなわち“医薬品”）のすべてに適用可能です。

#### 【ペプチドリーム株式会社について】

ペプチドリーム株式会社は、「日本発、世界初の新薬を創出し社会に貢献したい」という現社長窪田と現社外取締役菅（東京大学大学院教授）の共通の夢から、平成 18 年 7 月に設立されました。独自の創薬開発プラットフォームシステム：PDPS (Peptide Discovery Platform System) を用いて、極めて広範囲にわたる特殊ペプチドを多数（数兆種類）合成し、高速な評価を可能にすることで、創薬において重要なヒット化合物の創製、リード化合物の選択、並びにファーマコフォアの理解を極めて簡便に、かつ、効率的に行えるようにしました。ペプチドリーム株式会社は、特殊ペプチドを用いた創薬企業の世界的なリーダーとして世界中の病気で苦しんでいる人々に画期的新薬を提供することを使命として、研究開発に取り組んでおります。

#### 【BIND Therapeutics について】

BIND Therapeutics は、主に癌治療における新たな標的治療薬を開発しているバイオテクノロジー企業です。BIND 社の開発品は、疾患において特定の細胞や臓器を標的とするように設計された ACCURINS® と呼ばれる BIND 社独自のポリマーナノ粒子に基づいています。BIND 社は 3 つの異なる方向性で ACCURINS® の開発を行っており、2 つが自社開発品、残り 1 つがペプチドリームなどとの共同研究（開発）による革新的医薬品の創製であります。自社開発品は核酸医薬品の封印と癌免疫治療薬に特化した ACCURINS® の開発を行っており、最も臨床的に進んだ Accurin、BIND-014 は、ドセタキセルを含み、扁平上皮組織像、非小細胞肺癌、高度子宮頸癌、頭頸部癌患者の治療のための第 2 相臨床試験中です。

BIND 社は、米 Pfizer 社、英 AstraZeneca 社、スイス F. Hofmann-La Roche 社、米 Merck 社（米国及びカナダ以外 Merck & Dohme として知られている。）、米 Macrophage Therapeutics 社（米 Navidea 社の子会社として知られている。）、米 Synergy 社やペプチドリームと、それぞれ独自の封入用化合物及び/又は標的リガンドに基づく ACCURINS® の共同研究（開発）を行っています。

英 AstraZeneca 社との共同研究開発から見出したオーロラ B キナーゼ阻害剤 Accurin AZD2811 は、2 つ目の ACCURINS® シリーズの臨床化合物です。

米 Pfizer 社との共同研究開発からは、第 1 相臨床試験へと進む ACCURINS® を見出しました。

<http://www.bindtherapeutics.com/> の BIND Therapeutics の Web サイトを参照してください。

#### 【本リリースに関するお問い合わせ先】

ペプチドリーム株式会社 経営管理部 関根  
TEL : 03-3485-7707

## **Forward-Looking Statements Disclaimer**

This press release contains forward-looking statements. All statements contained in this press release that do not relate to matters of historical fact should be considered forward-looking statements, including statements regarding expectations regarding PeptiDream and BIND's collaboration; the potential of Accurins and BIND's innovative medicine platform; and the potential of peptides. These forward-looking statements are based on management's current expectations. These statements are neither promises nor guarantees, but involve known and unknown risks, uncertainties and other important factors that may cause PeptiDream's and BIND's actual results, performance or achievements to be materially different from any future results, performance or achievements expressed or implied by the forward-looking statements, including, but not limited to, the important factors discussed under the caption "Risk Factors" in BIND's Annual Report on Form 10-K filed with the United States Securities and Exchange Commission, or SEC, on March 15, 2016, and BIND's other reports filed with the SEC. Any such forward-looking statements represent management's estimates as of the date of this press release. While management may elect to update such forward-looking statements at some point in the future, it disclaims any obligation to do so, even if subsequent events cause the companies' views to change. These forward-looking statements should not be relied upon as representing the companies' views as of any date subsequent to the date of this release.